



麻布幼稚園だより

令和4年12月号
港区立麻布幼稚園
園長 酒井 正美

早いもので12月、2学期を締めくくり、年末へと向かう月となりました。いつも子供たちを見守ってくれている園庭の大きな桜の木は、春は満開の花と花びら、夏は新緑や木陰を作ってくれるたくさんの葉、そして秋は紅葉、今は寒い冬に向かい子供たちが楽しく遊ぶきれいな落ち葉を落としてくれています。寒さが増していく季節ですが、引き続き戸外で楽しく体を動かし遊びたいと思います。



先日は作品展へのご参加、ご参観をありがとうございました。親子参観の時間では、自分の作品を誇らしげに見てもらおう姿、友達や他学年の作品のことも楽しそうに話したり一緒に見たりする姿がありました。大好きなお家の方に見てもらい、楽しさに共感してもらい、頑張ったことを認めてもらったことは、子供たちの成長につながる貴重な時間となったことでしょう。

5歳児年長児は、東京タワー横の芝公園へ徒歩遠足に行ってきました。今年度は、「健康な生活リズムと習慣、体を動かす気持ちよさ」を重点の一つとして教育活動を進めています。徒歩遠足はその取組の一つです。狸穴公園、プラネタリウムの教育センターへ歩いていくことを積み重ねてきました。芝公園へは大人の足で20分程の距離ですが、30分程で到着。歩道では端に寄って歩いたり、信号を素早く渡ったりと歩き方がとても上手になりました。経験の積み重ねの大切さを感じます。芝公園では、急な斜面の登り降りを自分の足元にしっかりと注意をしながら挑戦していました。たっぷり遊んだ後も、しっかり歩いて幼稚園まで帰ってくる事ができました。ショートカットなし、乗り物なしで、一步一步自分の足で歩ききることは、粘り強さ、心の育ちにもつながります。5歳児年長組の子供たちの顔つきに、たくましさを感じるようになってきました。

『人・物・こと』への関わり、伝統的な行事や日本の文化に親しむは、もう一つの重点です。

今月は、「もちつき会」や「お楽しみ会」そして大掃除など、楽しいことや年末ならではの経験をしていきます。年末の「もちつき」は、家族や親族、ご近所の方と、町会で、など伝統的に行われてきた行事ですが、現代の生活の中ではなかなか経験できないものとなりました。

蒸籠(せいろ)を火にかけ蒸したもち米を、臼と杵でついてできる餅。蒸籠で蒸すための火、蒸した米の香り、米の粒が餅に変わっていく様子、大人や子供が集って大勢でもちつきをする楽しさ協力して餅が出来上がっていくことを感じるなど、「もちつき」には、子供たちに体験をさせたいことが多くあります。今年度は、餅つき委員の皆様のご協力で、園庭で米を蒸し、交代で餅つきを行います。幼稚園のみんなが集うことのできる園庭でにぎわいのある餅つきになることでしょう。餅つきでは、日常では聞くことが少なくなった、「もち米」「蒸籠(せいろ)」「かまど」「米を蒸す」「臼」「杵」「こねる」「つく」などの道具の名称や言葉が使われます。楽しい体験とともにこれらの言葉に触れ、豊かな思考や表現につながる豊かな日本語の獲得にもつながってほしいと思います。もちつき委員の皆様が素敵な掲示物を作ってくださいましたので既存棟壁面をぜひご覧ください。

自国の文化、言葉に親しみをもち大切にできる人は、相手の国の文化や言葉を大切にすることができます。自国理解をすることは、国際理解の意識の芽生えにつながっていきます。幼稚園では引き続き、日本の伝統的な行事や文化に親しむ機会を工夫し体験させていきたいと思ひます。